三医会 関西支部会 KANSAI 会報

三医会関西支部会事務局
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2-6-43
医療法人眼科いしくらクリニック
石蔵 文信・久美
TEL&FAX 06-6886-6681

三医会関西支部の会報発行によせて

三医会　会長　川原田　力也

この度、三医会関西支部の会報を発行するに当たり、三医会を代表して一言お祝いを申し上げます。

昨年度まで、関西支部の支部長をお務めになられた高橋章三先生には、小生が副会長の時に大阪や神戸で行われた関西支部総会に招待して頂きました。関西支部の大きさや人材の豊富さに驚かされた事は言うまでもありませんが、三重に住まいする私と比べ、大阪・京都・神戸…など、大都会の中で活躍される先生方の厳しさと大変さをひしひしと感じさせられました。高橋先生には４年間の支部長の大役、誠にご苦労様でございました。

さて、後任の支部長となられた杉本浩一先生（S42卒）は、小生（S45卒）が学生時代から親しみを感じている先輩です。また毎年の三医会総会には必ずご出席下さっています。前執行部からも信頼が厚く、総会では議長の大役をお勤め頂いておりました。その先生から関西支部の会報を発行するから一筆頼むと言われ、喜んでお引き受けした次第です。

さて、今年の6月に関東支部が会報を発行しました。川越康博支部長（S51卒）の話の中に、「貴重な情報源に―横の連携の絆」と題しての一部後半に「この激動の医療圏の中にあって、同窓生からの信頼感のある情報は、実に“貴重なもの”なのです。更に多くの先輩方が、首都圏で要職に就いています。現役教授や、前教授を始め、助教授、講師の他、医師会役員、病院長、診療部長、医長等、が輩出し、若い先生方の相談に喜んで乗ってくれます。これが同窓という横の連携の活用による豊かさなのです。各自が所属する組織の縦の繋がり以外に、もう一本『横の連携の絆―三医会』をもてるのです。それは数ではなく、連携の強さにあります。皆で協力して、楽しい素晴らしい三医会・関東支部会を作りましょう。」

以上の様な内容です。全く同感との思いで紹介させて頂きました。

さて、三医会本部も本年度の役員改選により伊藤厚副会長（庶務担当）S54卒、井村正史副会長（広報担当）S56卒、垣内雅彦副会長（財務担当）S58卒と若返りました。事務局の北川昭義氏（元三重大学職員、61才）に加え、元パソコンの教師・杉野みどりさん（26才）に来て頂き事務並びに財務の能力アップを図って参ります。

また全国的なことですが、三重県内でも新聞紙面で県内各地の医師不足を報じられています。殊に産婦人科、小児科は深刻な問題です。更にまた関連して後期臨床研修医師の確保も大きな問題です。この事については第一外科上本教授が担当されご尽力されています。本会も協力してまいりますが、この紙面をお借りして貴会の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げる次第です。

最後になりますが、平成17年度（18年3月末付）に退任される教授方のお名前お伝えします。

- 衛生学講座　西川　正祐　教授
- 生体防御医学講座　栗林　景容　教授
- 微生物学講座　伊藤　康彦　教授
- 第一内科講座　中野　赳　教授
- 第二内科講座　珠玖　洋　教授（寄付講座へ）

三医会関西支部長就任のご挨拶

杉本　浩一（昭和42年卒、大阪市）

2月11日（金・祝日）神戸市で開催された三医会関西支部総会において会員の先生方のご推挙を賜り支部長に就任させて頂きました。三医会関西支部は近畿2府4県に在住の三医会会員約500名から構成されています。

昭和30年頃から杉山茂男先生（昭和24年卒・大阪市）を中心として最初は関西在住の同期会からスタートし、次第に参加される先生の数も増え同窓会の形態を整えて三医会関西支部と発展しました。平成11年に2代目の支部長に高橋章三先生（昭和33年卒・神戸市）が就任され充実した支部の活動を果たされて三医会関西支部の発展に貢献されました。

この度3代目の支部長の大役を仰せつかったわけですが、浅学非才の私にはたして円滑な会務運営を大過なく行なう事が出来るかと言う不安が頭の中をよぎりますが、一旦お引き受けさせて頂いたからには誠心誠意努力して三医会関西支部の発展に寄与させて頂く所存です。なにとぞ会員の先生方のご指導・ご協力の程宜しく申し上げます。

就任から早や6ヶ月を経過しましたので少し具体的に申し上げますと、まず三医会本部との連携の強化を今まで以上により一層の緊密化を図るため6月12日（日）に開催された平成17年度三医会定期総会に出席し、三医会関西支部の近況について報告しました。

今後三医会本部の状況を支部活動に出来るだけ反映しなければと考えています。

次に関西支部会員相互の緊密な連携、特に若い会員との交流を深める事の重要性を痛感しています。6月4日（土）には関西地区の各基幹医療機関に於いて新医師研修制度のもとで医師としてのスタートを切った新会員の歓迎会と次年度関西地区での研修を希望されるM6の学生諸君との懇話会を安倍乃壮（大阪市阿倍野区）に於いて開催し約40名の皆様方の参加のもとで盛大に開催しました。更に充実した会に発展させたいと思っています。

また毎年2月に開催している関西支部の総会を近畿2府4県が順次輪番制で担当する事によってその地区での会員の連帯感の強化・推進に繋がればと思っています。平成18年2月19日（日）には滋賀県が主務担当として京都市に於いて開催して頂きます。滋賀医大耳鼻科教室の教授に就任された清水猛史先生（S58年卒）のお祝いも兼ねたいと思っていますので多数の先生方のご出席をお願いします。

構成会員が約500名ですので今までは発刊されていなかった関西支部会報をこの度作成し会員間の連携に役立てればと思っています。どうかご高覧下さい。

幸い私の周囲にはこの関西支部を支えて下さって事務局を担当して頂いてる石蔵文信・久美先生ご夫妻（昭和57年卒・昭和60年卒）や近畿2府4県の各副支部長が充分その任務を果たしてくださっている事を大変心強く思っています。関西支部の会則に則って各役員の方々と様々な案件をよく協議して、会員の先生方に情報を伝達し支援を得て活性化された支部の活動を目指して一生懸命努力させて頂きますので宜しくお願い申し上げます。

大阪北逓信病院長の独り言

大阪北逓信病院長　斎藤　徹
（昭和52年三重大学卒業）

本年3月に他界した父は東京大学理科Ⅰ類卒業で、私は理科Ⅲ類を受けたかったのですが、ＹＭＣＡ予備校で1番でも80～90％の合格率と言われ、太鼓判の大阪大学医学部を受験しましたが、不合格でした。人生はわからないものです。大学を卒業後は大好きな大阪に戻りました。レベルの高い技量を身につけるために京都大学の外科学教室に入局し、恩師谷村　弘先生に御指導頂き、大きく成長しました。論文を約50編執筆し、京都大学医学部の助手を希望しましたが、小澤教授は（他の教授はそうでもありませんが）他大学出身者を助手に登用しない方針であると言われ、受験の時と同じく挫折しました。

関西電力病院の外科副部長になり、平成5年（41才時）に胃癌に罹患して、人生は終わりかと思いました。3度目の挫折です。研修医の時に41才で胃癌になる夢を見たので、無症状でしたが胃内視鏡検査を受け、早期癌で命拾いしました。恐ろしいことに夢と同じ部位に癌が存在しました。

谷村　弘先生が教授選で敗退され、小さな病院への異動を予測していたら、平成7年12月に現実になりました。しかし、左遷ではなく、外科部長のポストでした。そこが、現在勤務する大阪北逓信病院です。国立病院で、前任者の南外科部長は乳腺外科と肛門外科に専念され、特に肛門外科は有名でした。名を汚さない様にその道に努力を重ね、外科部長で定年を迎えると予想しておりました。しかし、大阪北逓信病院長が突然、神戸逓信病院に異動されました。郵政公社と京都大学の両方の承認が必要な病院長にはなれるはずがないと考えておりましたが、平成17年4月1日に大阪北逓信病院長に指名されました。この先どうなるのかもわかりませんが、人の人生はわからないものです。

大阪北逓信病院は北区の中崎に位置する、１００床の病院です。肛門疾患、乳癌、大腸癌などが外科の得意分野で、痔核の凍結手術、（ジオンによる注射療法、）痔瘻に対するミニマル・シートン手術は有名で、近畿一円から多くの患者様を紹介して頂いております。また、西日本に2台しかないナビゲーション・サージェリーシステムを有する耳鼻科、消化器と肝臓を専門とする内科も売りです。真向かいにある北野病院とは資本は異なりますが、業務を提携しています。若い病院長、優秀な看護部長や事務長の元に職員は患者様本意のサービスを提供しております。看護師は白衣を捨て、3種類のユニフォームを着用しております。

私は、病院長職の業務以外に外来、手術、肛門疾患の主治医、ドッグ業務をこなして多忙です。病院長職はやりがいがありますが、責任が重く、孤独で、出世する前の外科医員であった頃を懐かしく回顧する時があります。

古稀を迎えて

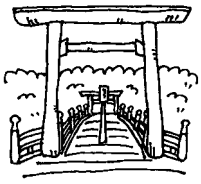
神戸リハビリテーション病院
庄村　東洋

この夏、古稀を迎えました。高齢化社会の昨今では「人生七十古来稀」といえるほどの感慨はもてないものの、体力や気力の衰えに、お釈迦さんの諸行無常、色即是空といったお教えがそこはかとなく分かるようになってきました。やはり年のせいと言うべきでしょう。

生まれ故郷は津市片田町田中で、隣接する櫛形町産品（ウブスナ）には平清盛の父忠盛の産湯を使ったといわれる忠盛塚があります。ここは伊勢平氏発祥の地とされ、清盛もこの地で生まれたとか。故郷を流れる岩田川は現在では衰えた津港に注いでいますが、その昔は安濃津と呼ばれ、室町時代に大地震に襲われ海底が浅くなるまでは薩摩の坊津、筑前の博多津に並ぶ日本三津のひとつに数えられた良港でした。往時、平氏は岩田川を利用して安濃津と産品を結び、水軍を展開して海外と交易していたのでした。

１９６８年7月、津を後にして神戸の市民病院に赴任しました。市中病院にも心臓外科を言う潮流の先駆けとなったもので、若干32歳の若さでした。神戸は平安時代に平清盛が国際貿易港・大輪田泊を望む福原に遷都した所でした。敵地に降下した落下傘部隊のように心細く、緊張を強いられる日々でしたが、「大都市神戸で日本に冠たる心臓センターを創設し、わが国の医学界に風穴を開けよう」という夢は持ち続けました。

平家物語は平氏の栄耀栄華と滅亡を語ることによって、諸行は無常であることを説いていますが、清盛が日本を貴族社会から武家社会へと転換させた、という歴史的事実は人類が続く限り消えないでしょう。そして、無名の私たちが開けた小さな風穴には日本の医学・医療界改革の風が吹き続けるに違いありません。



能　面

Ｓ24卒　杉山　茂男（芝春）

私と能面との出会いは学生時代から謡曲を習っておりましたが、後になにも残りません、テープに取っておく方法もありますが形としては残りませんので、何か形として残るものがないかと考えておりましたら、友人の医師の作った能面をみて、私にもできるかな?とその先生の紹介で能面師の石倉耕春師に入門したのが、Ｓ49年2月でした。それから30年あまり50を越える能面を彫りました。現在手元には30数面あります。20面ほどは新築祝い、結婚祝、その他お世話になった方々に進呈しましたが、必ず同じ面を作り、種類としてはほぼ同数です。

謡の師匠からは面（おもて）を打つのなら仕舞を習って、能を舞えと進められましたが、能を舞うのには最低２００万円位かかることを知っておりましたので、頑強に抵抗して、ついに仕舞はやらずに、能面のみに専念しました。始めの頃は一面を彫るのに約一年かかりましたが、最盛期には三面位を作りました。

現在は視力が衰え、左眼の黄斑部変性症の為、細かい仕事がしにくくなり、一乃至一面半位のペースで作っております。能面の製作にはすべて自分でやります。木取りから始まり、粗彫り、中彫りなどの工程を経て、ヤニ出し、裏の着色、表の地塗、上塗、古く見せるための細工、歯や目に金具を入れる場合は、それも自分で銅板を叩いて作り金メッキをします。顎髭、頭髪のあるものは、馬の毛を適当な色に染めて植毛します。毎日それに関わっているわけではないので日にちも掛るわけです。

写真の能面は【石王尉】といいます。能「西行桜」（さいぎょうさくら）前シテ、能【老松】（おいまつ）、【白楽天】（はくらくてん）【遊行柳】（ゆぎょうやなぎ）【雨月】（うげつ）などの後シテの面として用いられる。白目の部分と歯には金泥を入れてあります。これは神格化した老人を表しております。

Ｓ63年には師匠から雅号「芝春」を頂きました。一応プロの仲間に入れて頂きました。

三重大医学部の学生諸君との懇話会を終えて感じたこと

大阪市立総合医療センター　外科　小川　佳成

今回、彼らの持つ情報量の多さと私の研修システムに関する知識の少なさを痛感した。医師人生のスタートでの重要な選択となるので多くの情報を集めることは当然であるが、通り一遍の情報も多く、現場の実情が伝わっていない様にも感じられた。また、彼らと話していて本当に彼らが知りたいことは何であるのかが明確には解らなかったのも事実である。少しは役に立てたのであろうか、気がかりである。より有意義な会とする為には、聞きたいことを具体的にリストアップしてもらえれば良いかもしれない。また、立場により視点も違うので、研修2年目や5、6年目のレジデントの話を多く聞いてもらうのも一手かもしれない。

現状、学生諸君はセンター病院指向であるが、問題点が多いことも事実である。当センターを考えれば、皆が診療に忙殺されているため待っていても何も教えてもらえない、専門的手技が多く一般的な診療は経験できない、2年後の身分保障はない、等がある。大学病院、市中病院、地方の病院での研修が決して劣るものではなく、自分の性格と研修の目的を明確にして研修先を選ぶ方が得るものは大きいと思われる。働きやすい病院かどうかは、そこのスタッフの顔つきを見れば案外分かるような気がする。

学閥だの、能力だの、人間関係だのを心配するようだが、何処へ行こうとも本人にやる気があれば何も心配はいらない。

研修医の生活

医仁会武田総合病院　2年目研修医　林　真有

不安と卒業旅行ボケの状態で初めての「勤務」を始めることになったのは1年以上も前のことになる。私の勤務先は京都醍醐地区の中核病院である医仁会武田総合病院である。研修医としての2年間契約。マッチングという摩訶不思議なシステムも導入され見事マッチした病院であった。われわれの不安も然ることながら、病院側も初めての研修医を採用し、さぞかし不安であったであろうと思われた。指導医の諸先生方、看護師、その他の多くのスタッフの物珍しそうな視線を一斉に浴びつつ食堂で昼食を食べたものであった。

研修医は何をしているのか?この質問は医学生にとって興味深いと思われる。副主治医となり、患者様を担当する。そう言えば言葉の通りである。具体的には、患者様を診察する、カルテを書く、時には処置や処方もする。では、上級医との違いは?一番の違いは、時間がたっぷりあるので、またあまり偉そうでないので患者様の訴えを誰よりも知っていることである。入院中の患者様に一番近い存在であることは研修医ならではなかろうか。一年以上研修し概ねの主な科をぐるぐる回った今、もう一つ大きな違いを発見しつつある。それは、病院内で意外と顔が利くようになったことだ。500床以上の病院内で各科の壁を強制的に越えて研修してきた研修医。対診依頼も書くが、廊下ですれ違った時などにすぐ話を通せるのは研修医ならではの技である。

研修医のいい部分のみ書いてきたが、問題点も多くある。1～2ヶ月で一つの科が終わってしまうため、科の雰囲気、しきたりに慣れた頃に新しい科に移ってしまう。各科の治療方針や処方は知っているが、実際に使えはしない。一年経過した時点で、自分は一体何が出来るようになったのだろう、新しくやってくる研修医に一つでも教えてあげることがあるのだろうかと、またもや不安になった。それは今も続いている。

この夏、2年間研修が終わった時点で、この先自分の進路を決定しなければならない時期がやって来た。大学に戻り医局に属する人、初期研修をした病院に残る人、新たに別の後期研修病院に応募する人など、進路はバラバラである。「自由に選べていいな～」との上級医の先生方のお声も聞こえるが、当人は今度こそ進路が決定するぞ、と戦々恐々としている。どんな選択をしても2年間の研修を糧にするのも無駄にするのも自分次第、と自分に拍車をかけつつ研修生活はあと残り半年である。

三医会関西支部事務局だより

大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻
医療技術科学分野 機能診断科学講座
石蔵　文信

石蔵先生ご夫婦▶

2005年2月11日に神戸の東天紅で松原隆志先生（S54卒）のお世話で関西支部総会と懇親会を開催しました。この総会で新たに杉本浩一先生が満場一致で新会長に推薦されました。それに伴い、高橋章三先生は名誉会長に就任されました。今後、三医会関西支部は杉本浩一会長の下でより一層の親睦を高めていきますのでよろしくお願いいたします。

又、2004年夏には杉本先生のお世話にてアピオ大阪で関西支部の夏の会を開催しました。その時には三重大学の5年生を中心に在学生が参加しました。昨年から研修病院を全国から選ぶことができるようになり、6年生はすでに研修病院を決めたことや、その受験などで忙しく参加する学生は随分と減りました。2005年度は杉本会長のお世話にて天王寺で関西支部の夏の会を開催しました。今回はOBも多く集まり、学生もまだ研修を決めていない学生が多く参加し、盛り上がりました。

さて、ご存知のように医師研修制度は大学医局制度に大きな影響を与えました。都市部の大学への影響もさることながら、地方、とりわけ我々の母校の三重大学への影響は甚大であったことは皆様もご存知でしょう。先日、第一内科教授：中野赳先生から講演の依頼があり津に行ってまいりました。津駅周辺も昔ながらでしたが、駅前のグリーンパーク津に宿泊し、初めて三重大学の全景を見ることができ感激しました。

しかし、中野先生のお話から研修終了2年後も若い医師が大学に戻る気配は少なく、そのまま関連病院に残る可能性が多いことや人口の少ない郡部の病院では医師が減っていること、無医地区が増加していることなど、医局制度崩壊とともに深刻な問題が生じていることがわかりました。もちろん、有名関連病院に無制限に若い医師が所属し続けるのは困難で、いずれは大学医局を中心とした人材の再配分が行なわれると思いますが、それまでに大学自体が持ちこたえれるのか?また、都市部病院と地方病院の格差が益々大きくなるのではないか?など決して楽観的な推測ができる状態ではなさそうです。

関西にも多くの三重大学出身の先生がやってこられます。我々関西支部として新人に情報と伝えるとともに、三重大学の発展にどのように貢献するかが課題でしょう。また、母校の三重大学にも新人の医師が残って研修をしたいと思うだけでなく、他の大学の新人医師も三重大学でぜひ研修をしたいと思うようなシステム作りに期待したい。

三医会関西支部役職者一覧表（敬称略）

◆支部長　杉本　浩一（S42年）

◆副支部長（各府県１名）

大阪府	蔭山　充	(S52年)
京都府	石田　晟	(S39年)
兵庫県	松原　隆	(S54年)
奈良県	西川　勝仁	(S53年)
和歌山県	中村　光作	(S53年)
滋賀県	青木　建亮	(S39年)

◆専務理事

総務	石蔵　文信	(S57年)
会計	石蔵　久美	(S60年)
	宇野　里砂	(H5年)
厚生	小川　佳成	(S63年)
	西原　承浩	(H元年)

◆監査役　安藤　仁郎（S38年）
　宇野　敦彦（H5年）

◆勤務医会代表の理事
　庄村　東洋（S36年）
　布谷　隆明（S49年）
　岡田　行功（S49年）
　山形　高志（S51年）
　斉藤　徹（S52年）
　和栗　雅子（H元年）

◆開業医会代表の理事
　細野　進（S51年）
　倉田　順弘（S54年）
　山下　宣繁（S53年）

◆名誉会長　杉山　茂男（S24年）
　高橋　章三（S33年）